

三陸を楽しむ

■ 3年ぶりに一堂に会しての開催

第13回ツール・ド・三陸 2024



9月1日(日)、本市と大船渡市を会場に「第13回ツール・ド・三陸 2024」が開催されました。コロナ禍での分散開催を経て、3年ぶりに一堂に会しての開催となったサイクリング大会には、県内外から約190人が参加。突き抜けるように澄んだ青空が広がる中、スタート地点のアバッセたかたを勢い良く出発しました。最長で64.4kmにもおよぶコースに挑戦した参加者たちは、三陸の豊かな自然を満喫しながら、笑顔でまちを走り抜けました。

見事ゴールし、喜びの表情をみせる参加者



サイクリング途中のエイドステーションも充実。カキやワカメなど、地元の食材をふんだんに使った食べ物が提供され、「食」でも三陸を楽しみました。

最も距離が長い「健脚 A コース」に親子で参加した千葉英俊さんと息子の禎久さん（宮城県美里町）は見事に完走。英俊さんは「妻の実家が高田にあり、よく来ているが、やっぱり景色が良い。以前にも妻と3人で参加したことがあるが、あれから復興が進み、道路もきれいで走りやすかった」と振り返りました。禎久さんも「広田や碁石の海がとてもきれいだった」と話し、三陸の景色を堪能していました。



広田町にて、大漁旗の前で記念撮影



復興後の道路や美しい景色を楽しみました



スタート前に、ポーズを決めて全員で撮影

本年も開催

■ サッカーで笑顔広がる

第9回川崎フロンターレにこここサッカー教室



8月25日(日)、川崎フロンターレ東北のカリフォルニアフィールドを会場に「こここサッカー教室」が開催されました。

本市と友好協定を締結している川崎フロンターレのスクール・普及コーチから技術を学ぶ本教室は、今回で9回目の開催。小学生以上を対象に43人が参加し、学年や年齢ごとに分かれてのエアロビクスやボールを2つ使ったミニゲームなど、ユニークなメニューを通してサッカーを楽しみました。

参加した戸羽陽希さん(高田小4年)は「ミニゲームが一番楽しかった。今日のことを練習や試合に生かしたい」と意気込みました。



楽しく練習しながら技術を学びました

自然に学ぶ

■ 本年も生出地区での交流続く

立教大学第19回林業体験



8月26日(月)から30日(金)にかけて、生出地区で立教大学による林業体験が行われました。

27日(火)には生出地区内の「立教の森」で間伐作業に挑戦し、学生たちは本市の自然の豊かさと林業の大変さを体感しました。

コミュニティ福祉学部2年の多賀谷仁愛さんは「ハイキングが趣味なのでこうした体験に興味はあったが、1本伐採するのも時間がかかり、想像以上に大変だった」と驚きながら、作業に取り組んでいました。



集中して作業に取り組みました

市民交流

■ 誰もが安心して暮らせる地域へ

ふれあいまつり



9月7日(土)、市コミュニティホールを会場に令和6年度「ふれあいまつり」が開催されました。「ふれあいまつり」は市民の皆さんが福祉やボランティア活動への理解、関心を深め、誰もが安心して暮らせる地域となることを目指して行われており、コロナ禍の影響による規模縮小などを経て、本年は念願の通常規模での開催となりました。

当日は多彩なステージ発表や福祉事業所による物販、防災に関するワークショップなどが行われ、会場は大盛況となりました。

ステージ発表で踊りを披露したあすなろホームの佐藤葉子さん(高田町)は「練習期間が短く不安だったが、皆さんに盛り上げていただき、とてもうまくできたと思う」と爽やかな笑顔を見せました。



会場は大きな盛り上がりを見せました